

コスト構造改善プログラム フォローアップの効率化



総合技術政策研究センター

建設システム課 課長 佐近 裕之

主任研究官 駒田 達広

部外研究員 中島 章

(キーワード) コスト構造改善、フォローアップ、コスト改善施策統一メニュー

1. 研究の経緯・目的

国土交通省では2008年度に、これまでのコスト縮減の取り組みに加え、行き過ぎたコスト縮減は品質の低下を招く恐れもありコストと品質の両面を重視する取り組みとした「国土交通省公共事業コスト構造改善プログラム」（2008年度～2012年度）を策定し、2008年度から5年間で、15%（2007年度比）の総合コスト改善を目指とした「総合的なコスト構造改善」に取組んでいる。

2008年度の総合コスト改善率は、国土交通省・関係機関等合計で、3.7%の低減となった。物価変動等を含めた改善率は0.9%の低減となった。

本研究では、プログラムの目標達成支援のため、とりまとめ作業の負担軽減に繋がるフォローアップ作業の効率化に向けた検討を行った。

表1 2008年度の成果（総合コスト改善率）

施 策 項 目	改善率
1. 工事コスト構造の改善による効果	
1) 計画・設計段階の見直し	
① 設計基準類の見直し	0.44%
② 規格の見直し	0.47%
③ 設計VE等の活用	0.55%
2) 施工段階の見直し	
④ 事業間連等の推進	0.46%
⑤ 調達における工夫	1.21%
2. ライフサイクルコスト構造の改善による効果	
(1) ライフサイクルコスト構造の改善による効果	0.43%
3. 社会的コスト構造の改善による効果	
(1) 事業便益の早期発現による効果	0.07%
(2) 工事に伴う環境負荷低減による効果	0.005%
(3) 工事に伴う交通規制の改善による効果	0.02%
合 計	3.65%

2. フォローアップ作業の効率化

従来のフォローアップ作業では、具体的な施策の記入内容は、種々の名称が混在していたが、これを分類・整理して、コスト構造改善施策の「統一メニュー」を作成し、フォローアップ作業の簡素化・作業の負担軽減を図った。

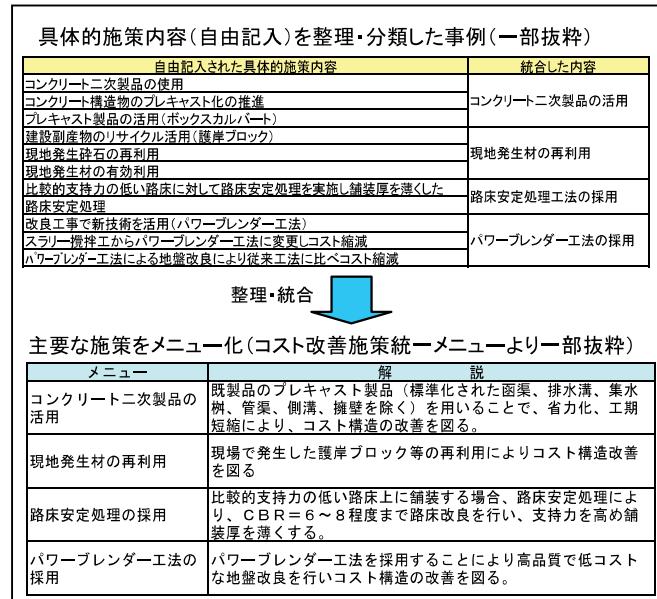


図1 フォローアップ作業簡素化の例

3. 基準年次における標準化施策のリストアップ

コスト構造改善の実績は、2007年度における標準的な公共事業のコストを基準として算出することとしている。基準年度では、広く普及し標準的となったコスト構造改善施策を、標準化施策メニューとしてリストアップし、また、記入票から削除して選択入力はできないこととして、フォローアップ作業での計上ミス・負担軽減を図った。

今後は、簡便なコスト改善額の算出手法の検討及び新たな評価項目である長寿命化によるライフサイクルコスト構造の改善、社会的コスト構造の改善など、工夫の余地の高い施策での効果の計測の効率化に取り組んでいく。

【参考文献】国土交通省大臣技術調査課 公共事業のコスト構造改善（平成20年度～24年度）

http://www.mlit.go.jp/tec/cost/cost_2.html